

Challengers

■【特集】大会レポート

2024年後半シーズン初戦
全日本実業団の戦いを振り返る

October
2024.10
Vol. 16

闘走。

■【連載】～Another History～

- シリーズ 第8弾 -

内野 李慧

Risei Uchino

駅伝への強い想いで
成長し続けるルーキー



■【Let's check !!】～陸上部情報～

\\ NEW FACE //
大津 颯杜

駅伝経験豊富な
頼もしいベテランが
新戦力として加入！



全日本実業団対抗陸上競技選手権大会

Result

着順	選手名	記録	所属	持ちタイム
1	並木寧音	13:47.25	SUBARU	13:43.03
2	吉原遼太郎	13:51.76	愛知製鋼	13:45.53
3	山谷昌也	13:51.92	ロジスティード	13:47.96
4	長嶋幸宝	13:52.25	旭化成	13:42.41
5	富田直樹	13:52.60	中央発條	13:46.89
6	漆畑徳輝	13:52.76	トーエネック	13:37.62
7	野村颯斗	13:52.92	中国電力	13:41.04
8	藤曲寛人	13:52.97	トヨタ自動車九州	13:43.85
9	相葉直紀	13:53.03	中電工	13:39.57
10	吉岡遼人	13:54.09	三菱重工	13:39.95
11	服部大暉	13:55.43	トヨタ紡織	13:36.01
12	松村和樹	13:55.90	愛知製鋼	13:44.78
13	野中優志	13:56.43	トヨタ自動車	13:39.42
14	杉山魁声	13:57.09	Kao	13:41.23
15	竹内大地	13:58.66	トーエネック	13:40.22
16	中西亮貴	13:59.89	トーエネック	13:40.57
17				
18				
19	浅岡満憲	14:40.88	中央発條	13:40.26

○ 開催日/開催地

9月23日(月) 山口県山口市

○ 出場選手(持ちタイム)

富田直樹(13分46秒)・浅岡満憲(13分40秒)
サイディム サイモン(13分24秒)

○ 大会概要

本大会は参加標準記録突破者のみが出場できる
3名の選手はいずれも5000mに出場
5000mの標準記録は13分55秒

「主将・富田」 2組 5着の好走

主力選手達と渡り合う
確かな手応えを感じるレースに。

一方、復帰明けの浅岡は苦戦
2組19着と悔しい結果となった。

Comment

全日本は3年ぶりの出場でした。
前はラストまで残れず14着で悔しい
結果でしたが、今回はラストまで残り、
そこから勝負できるレースができたこと
に成長を感じています。

特にレースの3600mで、一気に1周
64秒にペースが上がったところで落ち
着いて対応できたところは収穫です。
ただラスト100mで2人に抜かれてし
まったので、その課題を駅伝までに強
化していきます。

ケガあがりのため今回のレースでは高
い負荷を入れ、状態確認をする。それを
基に、今後の組み立てを考えるという位
置づけで、出場しました。

14分10秒でゴールできればと考えて
いましたが、まだ力が足りませんでした。
きつくなった時に我慢をする練習が足
りていないので、ペース走や3000mと
いったミドルの練習を中心に組み立て
直し、駅伝に向けて状態を上げていき
たいと考えています。

富田 直樹
Naoki Tomita

浅岡 満憲
Mitsunori Asaoka

「サイモン」 3組 9着

惜しくも2年連続
入賞を逃す

Comment

私のターゲットは駅伝で、6月～8月の3か月間、ケニアでのアップダウンを使った練習、ロング走を中心にってきました。現段階ではスピードを出しにくい状態ですが、昨年の13分32秒とほぼ同じタイムで走れたことはポジティブに捉えられます。タイムに関しては、ほぼイメージ通りです。

これから、スピードトレーニングを起伏走を取り入れ、ケニアで鍛えた持久力と合致させていきます。中部駅伝で区間賞を目指して頑張ります！

Result

着順	選手名	記録	所属
1	E. キブ チルチル	13:20.57	SGH
2	C. ダニエル	13:20.99	富士通
3	M. イマニエル	13:23.11	トヨタ紡織
4	R. ショド ラック	13:24.87	SUBARU
5	今江 勇人	13:25.09	GMO
6	N. レシア	13:27.26	西鉄
7	N. アバック	13:28.50	マツダ
8	菊池 駿弥	13:30.30	中国電力
9	S. サイモン	13:33.91	中央発條
10	林田 洋翔	13:47.25	三菱重工

SAIDIM SAIMON MUSIO

サイディム・サイモン・ムシオ

◆ PROFILE

サイディム サイモン ムシオ
ニックネーム: マサイ
出身地: ケニア ナクル
生年月日: 2000年10月12日
身長/体重: 176cm/56kg
血液型: O型
好きな言葉: No Pain No Gain
趣味: テレビ鑑賞

中央発條の為に、私は全力で戦う。

2019年4月入社 6年目。中発在籍年数はチーム最長。高校はバレー部で陸上初心者。中発に来てからキャリアをスタートし、ここまで成長した。

昨年の中部実業団駅伝では、区間2位の好走。一時トップに出るなど、みんなに勇気を与える走りを見せてくれた。

競技に真面目でストイック。そして、中発への愛は誰にも負けない、フォアザチームを大事にする選手。サイモン持ち前のファイティングスピリッツで、来年のニューイヤー駅伝こそ躍進してくれるはず。

— 年度別シーズンベスト推移 —

年度	所属	5000m	10000m	ハーフ マラソン
19	中央発條	13'25"07	27'51"72	—
20	中央発條	13'26"92	27'46"01	—
21	中央発條	13'24"17	—	—
22	中央発條	13'24"54	27'37"36	1°01'51"
23	中央発條	13'24"40	27'43"67	1°01'43"
24	中央発條	13'28"37	—	—

※太文字は自己ベスト

PROFILE

2001年10月26日生まれ 長崎県松浦市出身
身長168cm 体重50kg O型
松浦高校 → 関東学院大学

好きな言葉：やればできる！
誰にも譲れないところ：負けん気
自分の武器：ラストスパート
陸上とは：なくてはならない存在
目標：ニューイヤー駅伝区間1桁

内野 李 慧

Uchinio
Risei

「夢の舞台へ、突き進む」

品質保証部
品質監査室

2024年入社

自己記録

5000m	13分59秒00
10000m	29分07秒00
ハーフマラソン	1時間04分04秒

主な戦績

2018年	全国高校駅伝	2区	33位
2019年	全国高校駅伝	3区	44位
2023年	箱根駅伝(学生連合)	3区	OP

~Another History~

誰にも負けない、駅伝への情熱。

プロローグ

「幼いころからビックマウス」
内野は自身についてこう語る。
ただ自分が口にした大きな目標に
対して、一度も諦めたことはない。
これまで、全国高校駅伝、箱根駅
伝と目標に掲げた夢の舞台を自ら
の力で掴み取ってきた。

やるからには絶対に。有言実行
してきた内野の陸上人生。その中
心には、必ず駅伝があった。実業
団の道もニューイヤー駅伝の舞台
で活躍するため。
ここではそんな駅伝を愛し、駅
伝に愛された「内野李慧」の陸上
人生を振り返るとともに、駅伝に
対する思いの強さに迫る。

駅伝との出会い

内野が本格的に陸上を始めたの
は高校からで、それまではバリバ
リの野球少年。中学では市内で優
勝、最優秀選手に選ばれるほどの
実力者だった。そんな内野が陸上
の道に進んだきっかけは中学で参
加した駅伝だったという。

「野球部は冬になると駅伝大会に
強制参加。3年間続けていたら学
校で一番、市でも一番速くなりま
した。みんなで襷を繋いで競い合
う駅伝が本当に楽しくて、やれば
やるほど記録が伸びましたね」
高校でも野球を続ける選択もあっ
たが「身長が低い、線が細い」と
いう自分の体格に不安があった。

一方、陸上については全くの素人。
「粗削りでもここまで走れるなら
陸上の方が活躍できる可能性がある
かもしれない。そう思って高校
からは陸上で勝負しようと思っ
ました」

駅伝の存在が内野をこの世界へ
と導いた。そして、高校でもその
駅伝が内野をより成長させる存在
となる。

仲間と共に全国への挑戦

「入学してからは駅伝しか考えて
いませんでした。このタイムで走
りたいというよりも、絶対に全国
高校駅伝の舞台で走る。その思い
が強かったです」

当時の長崎県内は、力のある高
校が複数あり、実力が拮抗してい
た激戦地区。上位に位置する高校
は、どこが全国の舞台にいても
おかしくないような状況だった。

内野が進学した松浦高校もその
内の一校。しかし、当時チームと
して全国高校駅伝の出場回数は1
度だけ。そんな歴史を動かそうと
チームでも駅伝を最大の目標とし
て取り組んでいた。

さらに高校からは親元を離れて
の寮生活。駅伝で勝つために何が
できるかを毎晩のように仲間内で
話し合っていたという。陸上だけ
に打ち込む日々。この環境がより
内野の心を熱く燃やし、駅伝に対
する強い気持ちを作り出した。
「1年生の頃から鎮西学院と瓊浦

＜ 長崎県高校駅伝大会 順位変動 ＞

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
1位	瓊浦	鎮西学院	鎮西学院	松浦	松浦
2位	諫早	川棚	松浦	鎮西学院	鎮西学院
3位	鎮西学院	瓊浦	瓊浦	瓊浦	瓊浦
4位	川棚	諫早	創成館	創成館	創成館
5位	西海学園	西海学園	西海学園	川棚	川棚
6位	松浦	松浦	島原	西海学園	長崎北陽台

※1位のみが全国高校駅伝に進める

内野在籍期間

高校が県駅伝の有力校として挙がっていました。下馬評を覆したい。本気で挑んだからこそ2年、3年とみんなで勝利を掴みとれたことが本当に嬉しかったです。特に3年時は自分の区間で勝負を決めることができました。個人では得られない喜びが駅伝では味わえる。高校駅伝でより駅伝が好きになりました」

チームメイトと陸上漬けの日々を過ごす中で、内野もチームも着実に力をつけていた。入学する前は1度しか進めていなかった全国の舞台へ。なんと2年連続出場するという大きな歴史を刻んだのだ。 **もっと強くなりました。**

「すごい。」
目標だった全国大会。今まで経験してこなかったレベルの高さに驚いた。夢の舞台で納得いく走りではできなかったが、肌で感じた強い選手たちの走りから新たな気持ち芽生えたという。



▲ 全国高校駅伝を走る内野（高校3年）

「同じ年でもこんな速いペースで走れるのかと圧倒された一方で、同じレベルに到達するためにもっと強くなりた。次のステージで進み、さらに大きな舞台でリベンジしたいと思いました」

全国大会での経験から新たな目標が生まれた。次は箱根駅伝に出場する。

「進路先に箱根常連校ではない、関東学院大学を選んだ理由は、僕自身の大学4年間の育成ビジョンまで考えて、熱心に勧誘してくれたからです。この大学でレベルアップして、箱根に必ず出場する覚悟を決めることができたのは、スカウトしてくれたゼネラルマネージャーの上野さんのおかげです」
高校では目標を果たすことができた。やるからには絶対に。大学でも絶対に目標を達成するんだという強い気持ちを胸に、新たな挑戦をスタートさせた。

立ちはだかる高い壁

大学2年に至るまで内野の陸上人生は順風満帆だった。特に大きな故障もなく、毎年自己記録を更新。年々成長を感じる中で、プラン通り順調に力をつけた。

ただ1年、2年と目標の箱根出場に

手が届いていなかった。上位10校が本戦へ行ける箱根駅伝予選会。チームでの出場は厳しい状況だったため、個人で上位に入り、選抜チームでの出場を目指していたのだが、箱根の道は簡単なものではなかった。

「記録も伸びていて、夏にも月間1000k超えの走り込みもして、かなり自信はありました。しかし、どのチームも死ぬ気で出場権を取りにくる中で、その気持ちの強さに自分自身、見劣りがあったと思います。どこかで今年はいけそうだと過信した。隙を見せたら足をすくわれる厳しい世界なんだと、改めて学ぶことができました」

箱根駅伝の出場チャンスは残り2回。夢を実現するためにより一層、気持ち引き締まったという。しかし、その思いとは裏腹に、3年目に待ち受けていたのは試練の連続だった。

逆境を乗り越え、夢の舞台へ

「僕が3年生の夏頃に、4年生最後の箱根駅伝では、『学連選抜チーム』が廃止されることが発表されました」

選抜チームでの出場を狙っていたため、3年目が箱根出場へのラストチャンスになってしまったのだ。ただ試練はそれだけではなかった。内野自身にもアクシデントが起こってしまう。

「発表と同時に、珍しく故障してしまつて。それも厄介なことに、痛くても走れちゃうような故障箇所だったので、走りながら治そうとしてしまいました。焦りもあったと思います。その影響で完治しないまま、痛みを我慢



▲ 箱根予選会 意地の走りで学連選抜の座を掴み取る

しての練習が続きました」

結局、箱根予選会の本番も万全な状態で臨むことはできなかったという。

不安要素を抱えたままの最後の挑戦。追い込まれた状況に対して、内野の心を支えたのは、必ず目標を達成するんだという強い覚悟だった。

「骨折のような絶対に無理な状態ではなかったのですが、もうやるしかない死ぬ気で挑みました」

その思いの強さが夢の舞台へと繋げてくれた。個人成績で学連選抜チームの8番手に入り、見事箱根駅伝出場の切符を勝ち取った。一生に一度のチャンスをつかみ、大学でも自身が掲げた大きな目標を達成。その実現力と気持ちの強さは、内野の魅力だ。

箱根駅伝本番は、痛みが完治したものの故障の影響で本来の力を発揮することは出来なかったが、この経験がさらに駅伝への思いを強くした。

「もう一度この舞台で走りたい」
夢は終わらない。駅伝の存在が原動力となり、内野をさらに上のステージへと突き動かした。



▲ 箱根駅伝 本番は3区を任せられた

苦しい4年目シーズン

大学4年は最後の箱根予選会、そしてさらに上を目指すため、実業団の道を目指した。しかし、再び故障に泣かされるシーズンに。最後の箱根予選会も万全な状態では臨めなかった。

「正直自分だけのことを考えると予選会を回避して、個人レースでアピールする時期にしたいという気持ちもありました。実業団に進みたいと思っていたので。でも今自分がやるべきことは、チームのために走ることに。様々なところでサポートしてくれた大学への感謝の気持ちは大きかったです。チームでの出場は厳しい状況でしたが、4年間育ててくれたチームへの恩返しのため、最後の箱根予選会はどうな結果になろうと頑張ろうと走り切りました」

個人としてもチームとしても悔しい結果に終わってしまったが、その選択に後悔はなかったという。ただ実業団への道はさらに厳しいものとなった。

真正正銘のラストチャンス

最後の予選会が終わってからの、残り少ない期間で必死にアピールするも、どの実業団からも目に留まることはなかった。

「今年で決まらなければ、諦めて一般就職ではなく、大学に残って再度実業団の道を模索しようとして決めてました。実業団に進みたい気持ちはそれほど大きかったです。その思いを汲んでくれたのが、スカウトでお世話になった上野さんでした。最後の最後で中発に掛け合ってくれて、アピールの機会をいただきました」

3月上旬。ラストチャンスに全てを懸けた。その覚悟と走りを見近で見たと佐藤監督は内野に大きな可能性を感じたという。「チームテーマのスピード強化に対して、内野の切れのある走りが加わることで、チームのプラスになる。そして何より人一倍の『駅伝への情熱』に魅力を感じました。内野の加入がチームの起爆剤になるかもしれない、と期待



▲ 積極的に練習を引っ張る内野

できたことが採用の決め手でした」内野の思いの強さが実業団への道を繋いだ。未来が開けた瞬間。ギリギリではあったが、内野はこうして新たなステージへと進むことができたのだ。

チームへの貢献と恩返し

「実業団での目標はもちろん、駅伝でチームに貢献することです。これまでと違うのは、その舞台で結果を残すこと。区間1桁で走りたいです」

実業団でも掲げたその目標を実現するために突き進む。入部してから春先は基礎練習、夏合宿も地道なスタミナトレーニングと駅伝に向けた脚作りに取り組んできた。先輩たちの力を借りつつ、自分からも積極的に練習を引っ張る姿から内野の強い想いが伝わる。

「中発への恩返しは駅伝で結果を出すことです。もちろん自分自身の力でチーム目標を達成に導くことができれば100点ですが、まだそこまでの実力はありません。まずは新人として練習から守りに入らず、チームに勢いをつける攻めの走りを心がけています。自分自身ももっと強くなりたいですし、チーム全体でもレベルアップが必要です。駅伝はチーム競技。1年目からレギュラーを狙っていますが、競技以外にもチームのために、自分のできる最大限の取り組みを意識して過ごしていきます」

駅伝に対して、そしてチームに対しても熱い思いをもつ。そんな内野のチームへの貢献は練習だけではない。その明るい性格から寮生活でもチームを盛り上げている。

- Season's best performance -

年度	所属	1500m	5000m	10000m	ハーフマラソン
19	松浦高校	4'03"24	14'40"50	30'44"51	-
20	関東学院大学	-	14'10"54	29'55"20	1'04"04"
21	関東学院大学	3'55"78	14'06"40	29'18"99	1'05"25"
22	関東学院大学	3'52"18	13'59"00	29'37"08	1'04"14"
23	関東学院大学	-	14'34"77	29'07"00	1'04"33"
24	中央発條	3'59"82	14'08"19	-	-



- Running Date -

「今、こうして僕が実業団で競技が出来るのも、採用してくださった会社の方々、佐藤監督、そして送り出してくれた上野さんのおかげです。今度こそ結果で恩返しできるように大好きな駅伝で活躍できるように頑張ります」

高校、大学と掲げた目標は必ず成し遂げてきた。いよいよ最終ステージの実業団。ニューイヤ駅伝で内野の活躍が見ることができた時、チームとしての躍進も間違いないだろう。これから先の内野の走りに期待したい。

- 新戦力 -

Close-up Men

Kento Otsu

大津頭杜

気持ちで負けない
「粘りの走り」

Personal Best

5000m	10000m	ハーフ	マラソン
13.52.84	28.39.54	1.01.43	2.08.15

Ekiden Result

2012	箱根駅伝	8区	区間賞
2014	箱根駅伝	10区	区間賞
2015	ニューイヤー駅伝	7区	5位
2016	ニューイヤー駅伝	1区	10位
2017	ニューイヤー駅伝	7区	8位
2018	ニューイヤー駅伝	3区	7位
2020	ニューイヤー駅伝	4区	7位
2021	ニューイヤー駅伝	4区	10位



◆ PROFILE

大津頭杜（おおつけんと）

生年月日：1991年12月7日

身長／体重：164cm／52kg

血液型：O型

MBTI：ENFP（運動家）

出身地：熊本県上天草市

出身校：大矢野中 → 千原台高 → 東洋大

経歴：トヨタ自動車九州（2013～2023）
→ サンベルクス（2023～2024）

好きな言葉：Life is a series of choices
人生は選択の連続だ

尊敬する人：今井正人

誰にも譲れないところ：レース終盤の粘り強さ

自分を支える原動力：自身の夢と家族の存在

中発での目標：日の丸をつける



駅伝に対する思い

駅伝は得意分野であり、自身の存在感をアピールする場だと思っています。会社や家族、いつも応援してくださる方々に成長している姿を見せて結果で恩返ししたいです。

また、ニューイヤー駅伝には10年連続で出場しています。これまでの経験をチームに還元する。そして自分自身は、現状に満足せず常に上を目指す攻めの走りで、目標達成に貢献できるよう全力を尽くします。

社員の皆さん、応援してくれる方々へ

競技に最大限集中する環境を与えていただき本当にありがとうございます。感謝の気持ちを結果で返せるように、これまでの競技経験と新しい刺激を吸収して、仲間と共にチーム過去最高順位を目指します。応援よろしくお願いたします！

2024年度 チームスローガン

- 競争 共創 -

中央発條陸上競技部

■ 【特集】大会レポート 全日本実業団
Another History / 内野幸雪編

■ 【Let's check II】～陸上部情報～ 新加入選手紹介